○国家公安委員会告示第三十七号

道路交通法（昭和三十五年法律第五号）第一百八条の二十八第四項の規定に基づき、交通の方法に関する教則（昭和三十二年国家公安委員会告示第三号）の一部を次のように改正したので、告示する。

令和六年九月四日

国家公安委員会委員長 松村 祥史

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに順次対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改 正 後	改 正 前
<p>第3章 特定小型原動機付自転車や自転車に乗る人の心得</p> <p>特定小型原動機付自転車や自転車の通行方法は、特別の場合のほかは自動車と同じです。特定小型原動機付自転車や自転車に乗るときは、特にこの章に書かれている事柄に注意しましょう。</p> <p>第3節 安全な通行</p> <p>1 [略]</p> <p>2 走行上の注意</p> <p>特定小型原動機付自転車や自転車に乗る場合は、危険な走り方を避けるとともに、側方や後方の車の動きにも十分注意しましょう。</p> <p>[(1)~(10) 略]</p> <p>(11) <u>走行中はスマートフォンなどの携帯電話などを使用したり、これに表示された画像を注視したりしてはいけません。また、傘を差したり、物を担いだりすることによる片手での運転や、ヘッドホンの使用などによる周囲の音が十分聞こえないような状態での運転は、不安定になつたり、周囲の交通の状況に対する注意が不十分になるのでやめましょう。</u></p> <p>[(12)~(15) 略]</p> <p>[3・4 略]</p> <p>第8章 二輪車の運転の方法</p> <p>この章は、二輪車を運転する人に特に知っていただきたい運転の方法を掲げていますので、運転する前の心得や一般的な運転の方法などについては、自動車と一般原動機付自転車のところ（第4章～第7章）を参照して</p>	<p>第3章 特定小型原動機付自転車や自転車に乗る人の心得</p> <p>[同左]</p> <p>第3節 安全な通行</p> <p>1 [同左]</p> <p>2 走行上の注意</p> <p>[同左]</p> <p>[(1)~(10) 同左]</p> <p>(11) <u>スマートフォンなどの携帯電話の通話や操作をしたり、傘を差したり、物を担いだりすることによる片手での運転や、ヘッドホンの使用などによる周囲の音が十分聞こえないような状態での運転は、不安定になつたり、周囲の交通の状況に対する注意が不十分になるのでやめましょう。</u></p> <p>[(12)~(15) 同左]</p> <p>[3・4 同左]</p> <p>第8章 二輪車の運転の方法</p> <p>[同左]</p>

下さい。なお二輪車とは、大型自動二輪車、普通自動二輪車及び一般原動機付自転車のことをいいます。

第6節 その他注意しなければならないこと

1 [略]

2 ペダル付き原動機付自転車

ペダル付き原動機付自転車（ペダルが備えられている自動車又は一般原動機付自転車をいいます。）を原動機を作動させずにペダルを用いて走行させる場合であつても、自動車又は一般原動機付自転車の運転として扱われます。

3 [略]

第6節 その他注意しなければならないこと

1 [同左]

2 ペダル付き原動機付自転車

ペダル付き原動機付自転車（ペダルが備えられている原動機付自転車をいいます。）を原動機を作動させずにペダルを用いて運転する場合であつても、原動機付自転車として扱われます。

3 [同左]

備考 表中の [] の記載は注記である。

附 則

この告示は、道路交通法の一部を改正する法律（令和六年法律第三十四号）附則第一項第二号に掲げる規定の施行の日（令和六年十一月一日）から施行する。